

# ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)が実現した社会とは?

一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会をいいます。

誰もが自分のライフスタイルやライフステージに合った多様な生き方を柔軟に選択できる、「ワーク・ライフ・バランス」社会の実現に向けて、国と地方公共団体、企業、働く人が一体となって取り組むことが重要です。

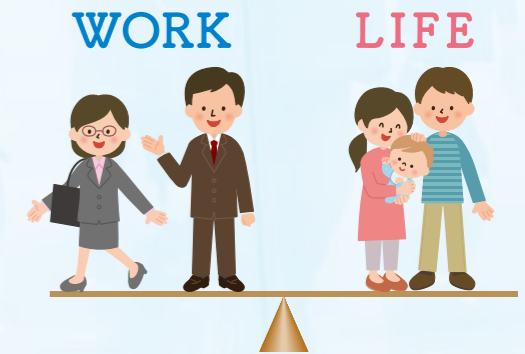
## ワーク・ライフ・バランスに取り組むメリット

### 企業・事業所

- 優秀な人材の確保
- 生産性や売上げの向上
- 事業所イメージや評価の向上 など

### 労働者

- 育児・介護との両立やスキルアップ、社会貢献による満足度の向上
- 仕事への意欲の向上
- 健康の保持増進 など



## ワーク・ライフ・バランスで持続可能な社会の実現!!

ワーク・ライフ・バランスと経済成長は車の両輪であり、誰もが意欲と能力を発揮して労働市場に参加することは、国の活力と成長力を高め、ひいては少子化の流れを変え、持続可能な社会の実現にも繋がります。

### 具体的には次のような社会を目指します

#### 就労による経済的自立が可能な社会

経済的自立を必要とする者、とりわけ若者がいきいきと働くことができ、かつ、経済的に自立可能な働き方ができ、結婚や子育てに関する希望の実現などに向けて、暮らしの経済的基盤が確保できる。



#### 健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会

働く人々の健康が保持され、家族や友人などの充実した時間、自己啓発や地域活動への参加のための時間などを持てる豊かな生活ができる。



#### 多様な働き方・生き方が選択できる社会

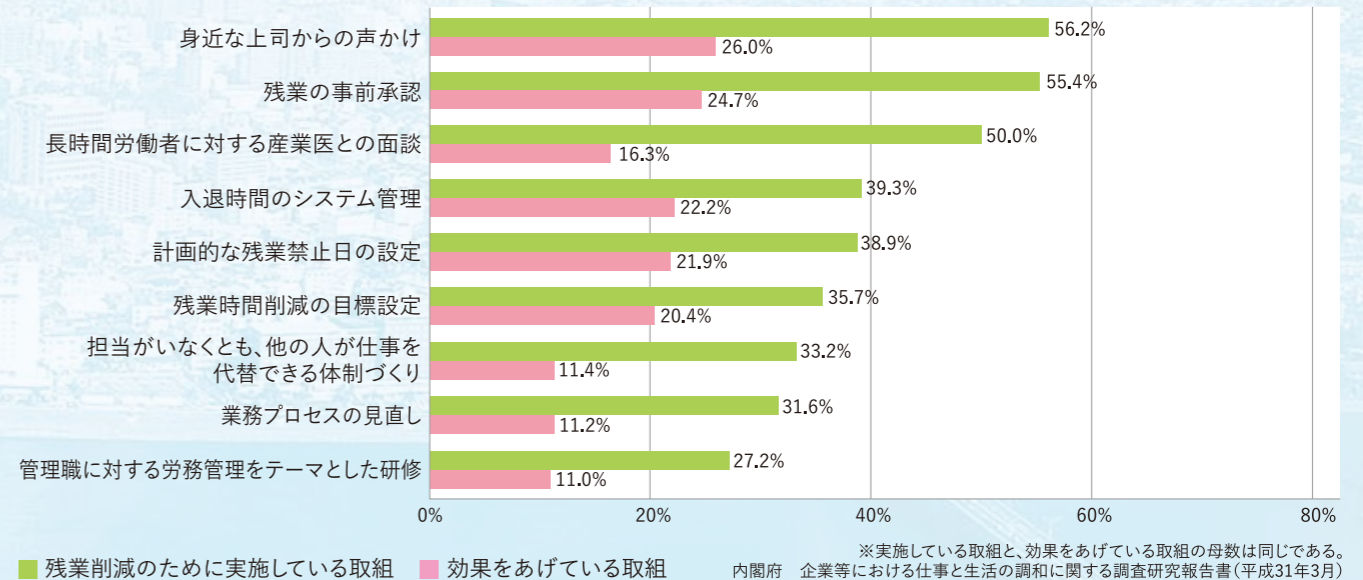
性や年齢などにかかわらず、誰もが自らの意欲と能力を持って様々な働き方や生き方に挑戦できる機会が提供されており、子育てや親の介護が必要な時期など個人の置かれた状況に応じて多様で柔軟な働き方が選択でき、しかも公正な処遇が確保されている。



### ● 残業削減のために実施している取組・効果をあげている取組

内閣府の調査によると、残業削減のために実施している取組は、「身近な上司からの声かけ」(56.2%)、「残業の事前承認」(55.4%)などが上位となっています。その中で効果をあげている取組をみると、「身近な上司からの声かけ」が26.0%で最も高く、次いで「残業の事前承認」が24.7%、「入退時間のシステム管理」が22.2%となっています。

残業削減のために実施している取組・効果をあげている取組：複数回答



## 働き方の見直し例

仕事の進め方を効率化し、働き方を見直しましょう。

まずできることから実践してみましょう!



## 業務の洗い出しとムダ取り

業務・作業のムダを見つけ、見つかったムダをなくします。

- 恒常化している業務の必要性を再検討する
- 社内資料・書類の削減
- 会議の削減・時間短縮 など

## 業務フローの改善

どの業務から着手し、いつまでに、誰が行うのかを決めます。

- 業務の優先順位付け
- 業務のスケジュール化、進捗状況のチェックと反省
- 業務分担の適正化・平準化 など

## 従業員各自の業務効率化

業務の迅速化、従業員の能力開発等を図ります。

- 業務の標準化・マニュアル化
- コミュニケーションの効率化
- 業務に集中できるオフィス環境づくり
- 時間管理ツールの導入
- 「がんばるタイム」の設定
- 「仕事の進め方の具体的な効率化策」の共有 など